

地域の教育力に 期待する

岡崎高等学校長

高須 勝行 氏



教育随想

平成二十一年度から本校が中心となり、県内のスーパーサイエンス高校等と協力して行っている「科学三昧」あいち二〇××という、高校生による研究発表会をご存知でしょうか。文部科学省が指定したスーパーサイエンス高校の研究成果を地域に普及・還元することをねらいにして、科学技術振興機構（JST）や県教育委員会の支援のもと、岡崎コンファレンスセンターを会場にして開催しています。今年度も十二月二十六日に実施する予定です。

また、自然科学研究機構生理学研究所のご協力のもと、本校スーパーサイエンス部の生徒が成人や子供たちを対象に行う「岡崎の科学実験工房」には毎年百人ほどの参加者があり、日常生活で出会う不思議な現象を科学の理論で理解したり、体験を通して学んだりする機会として



平成24年11月1日

11月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎高等学校長 高須 勝行氏	
この人に聞く	2
ロンドンオリンピック アーチェリー団体銅メダリスト 蟹江 美貴氏	
羅 針 盤	2
理科指導員 荻須 文裕	
ふれあい	3
北中学校 平岩 大督	
特 集	4
岡崎の情報発信基地	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
自由遊び	
この本を	8

たいへん好評です。

さて、子供たちの理科離れが指摘される昨今ですが、「岡崎の科学実験工房」に集まる子供たちの目は、みな輝いています。子供たちは、実は理科が嫌いなのではなく、その面白さに気付いていないだけではないでしょうか。小中学校の先生方には、何よりもまず子供たちの好奇心を大切に、「不思議だな」「なぜだろう」と疑問に思う気持ちを育てていただきたいと思います。そして、彼らの素朴な疑問を受け止めて、「どうしたら解決できるだろう」と一緒に考えていただきたいのです。

本校がスーパーサイエンス高校の指定を受けて十一年目になりますが、当初は理科の教員が、大学の研究室を一つずつ訪ねてお願いした高校と大学との連携教育も漸く定着してきました。また、先生や生徒が地域社会に出かけて研究・学習成果を発表する出前講座も当たり前になってきました。

今後も、地元にある素晴らしい研究機関や企業、大学、高校など、地域社会の教育力を互いに活用して、科学技術に関する岡崎の子供たちの興味・関心や学力を育てる可能性に、大いに期待したいと思います。

(たかす かつゆき)



この人に聞く



アーチェリーにのせた夢

ロンドンオリンピック

アーチェリー団体銅メダリスト

蟹江 美貴 氏

今年、日本の夏をさらに暑くしたロンドンオリンピック。その熱も冷めやらぬ八月八日、銅メダルを携え凱旋帰国した蟹江選手に、岡崎市役所でお話をうかがうことができた。

アーチェリーとの出会いは、東海中学校一年生のときだった。

「運動部に憧れていました。でも、走るのが得意ではなかったので、走らなくてもよいアーチェリーなら、自分にもできそうだと感じました。初めて弓を見たときは、かっこいいなと思いました。」

アーチェリーは、精神面が重視される競技だ。大歓声の中、いかに平常心を保ち、練習通りの撃ち方ができる

かどうかに勝負がかかっている。

「アーチェリーは、最後の最後まで結果が分かりません。だから、観客も最後まで見入ってしまう競技だと思います。一本、一点の重要性が魅力です。」

そんなアーチェリーと蟹江選手の性格は、うまく合っていたようだ。

「自分は、あまり緊張しないタイプです。今回のオリンピックも、がちがちに緊張するのではなく、ほどよい緊張感をもって撃てました。シューティングラインに入ると、ぱっと切り替わって集中できる。でも、撃ち終わると、その緊張がすつと解ける。もともとそういうことが得意みたいですね。アーチェリーは、めりはりをつけることが大事です。」

高校生のときの目標は、世界大会に出場することだった。その夢は、大学のときに実現する。そして、次はオリンピックを目標に、ミキハウスに入社した。

しかし、大きな壁に突き当たる。「アーチェリーを続けてきて、いちばん辛かったのは、ロンドンオリンピックの最初の予選です。三位までに入らなくてはいけないところが、五位でした。暗くなるまで練習して、少しずつ自信もついてきたところでした。オリンピックに出たくてミキハウスに入社したのに、ずっと目指してきたものが、一瞬にして目の前



から消えたようでした。」

目標を失い、思い通りの撃ち方ができず、苦しい日々を過ごした。

ところが、二〇一二年六月、チャンスがめぐってきた。オリンピック出場が決まっていた国だけで行われたワールドカップ。そこで、ロンドンオリンピックの出場権を獲得したのだ。

「夢だったオリンピック出場を果たし、銅メダルという結果を出した今、まだ次の目標は考えていません。今は、教えて喜んでもらえるのがとてもうれしい。自分が結果を出す以上に、次の世代に結果を出してもらおう方に気持ち傾いています。母校で教える機会があったらうれしいです。」

蟹江選手の顔に、また穏やかで優しい笑みが広がった。

氏名 かにえ みき

生年月日 昭和六十三年十二月四日

住所 大阪府東大阪市

羅針盤



「体験すること」の大切さ

理科指導員

荻須 文裕

「さあ、やってみましょう。」

この一言を待っていたかのように、子供たちは一斉に動き出した。一人が栓の付いた注射器を実験台に立てる。もう一人は上からピストンを押す。簡単にピストンは押し込めない。手のひらを重ねて両肘を伸ばし、爪先立ちで体重をかける。ぐぐつと、ピストンが下がる。空気を圧縮したときの手心えを体験する実験である。上から押す手を緩めると、ピストンは、すうつと上がってくる。

「わあ、最初のところまで戻った。」

「僕もやりたい。交代して。」

ほんの数分の実験である。しかし、「空気鉄砲の中の空気はどうなっているのだろうか」という問題意識を解決へと導くには、十分な体験活動となった。

「さあ、前にかいた自分のイメージ



A男の新たな挑戦

北中学校 平岩 大督

「先生、僕やってもいいですか。」
リーダー候補を決める直前、A男が私に声をかけてきた。

今年度、本校は新たな試みに挑戦した。それが、スポーツフェスタ（体育大会）において二年生二四二名で演じる岡崎の舞「夢おどる」である。その成功に向けて、踊りのリーダーを決めることになった。

二年生になったばかりの頃のA男は、一つ一つやるべきことをきちんと行うことはできるが、性格はおとなしく、リーダータイプではなかった。また、以前友達から悪口を言われたことで、自信を失ってしまったという話を、家庭訪問で母親から聞いていた。数日後、私は、「つまずいたら、いつでも相談に乗る。自分が正しいと思った道を進めばいい。」と伝えた。しかし、A男はなかなか

自信をもつことができなかった。
ある日、目に涙を浮かべたA男が私に言った。

「僕、（自分らしさを出すのが）怖いのです。」

私は、
「時間はかかってもいい。どんなに小さなことでもいい。一緒に頑張っていこう。」
そう伝えた。

この日から、A男の挑戦が始まった。授業中の積極的な挙手、教室の整理整頓、そして部活内でのリーダー役への挑戦など、自分を変えようとするA男の努力には目をみはるものがあった。私は、その都度、「本当によく頑張っているな。この頑張り、絶対にA男の成長につながる。」と声をかけた。同時に、生活の記録にA男の取組みを認める朱書きを入れたり、学級通信で頑張りについて紹介したりした。

七月に入って、学級のためにA男が動く大きな出来事があった。水泳大会の選手決めの際、背泳ぎの選手が最後まで決まらなかった。技能的に難しいためか、希望する者がいなかったのだ。学級に、重苦しい空気が流れた。そのとき、

「先生、僕やります。遅くてもいいですか。」

A男が、口を開いた。学級の皆が

頷いていた。そして、自然に拍手が起こったのだ。学級の中で自分らしさを出せるようになったA男の成長した姿が、そこにあった。
そして、七月末のリーダー立候補締切り当日のことだ。A男は、自分を成長させるために、勇気を出して立候補した。その表情からは、A男の強い気持ち伝わってきた。

九月の練習では、リーダーとして仲間を指導するA男の姿があった。指導に苦労する場面もあったが、一つ一つの経験が、A男を大きくしていった。A男の頑張りや学級の仲間たちが知っているからこそ、皆がA男についていった。

スポーツフェスタ本番、北中学校の初代・岡崎の舞「夢おどる」は最高のかたちで幕を閉じた。二四二名の中でA男の舞は、一段と輝いていた。



図を、かき直してみよう。」

教師の投げ掛けに、A子は突き動かされるように図をかき始めた。前時にかいたA子のイメージ図には、筒の中に空気を表した人型モデルがかかれていて、その両腕が、空気鉄砲の前玉を押ししている。玉がポンと飛び出す瞬間を、筒の中の空気になり切ったかいたイメージ図である。

それが、実験後のイメージ図では、押し棒が前玉に近づいた場面で、人型モデルの顔が険しくなっている。片方の腕は前方を、もう片方の腕は後方を、力こぶまで作って押ししている。空気が押し棒を押し返す強い力を意識した図へと、変容を遂げたのである。

その後の話し合いでA子は、
「押し棒を押すと、ぐっと手に力が伝わってきて押し戻されたから、後ろにも力がはたらいている。」
と、自分のイメージ図が変わった理由を、堂々と班の友達に発表した。

言語活動の充実が提唱されている。理科においても、話し合いや論述、図やグラフを用いた考察等が重視されている。しかし、忘れてはならないのは、『何を表現するのか』である。事実をとらえるために、見て、触れて、匂いや音を感じ取ることにこそ、理科の神髄がある。

岡崎の情報発信基地



▲ ぶどうの収穫をする児童（恵田小）を取材する「ミクスネットワーク」

映像と音と紙。伝える手段は違っても、岡崎には、地域の情報を、正確に分かりやすく、そして、楽しく伝えてくれる様々な情報機関がある。

「ミクスネットワーク(MIXS)」は、「あなたがニュース」を合言葉に、地域密着の情報を発信する放送局である。大手放送局と違い、企画から撮影、編集まで、一つの番組を少人数で制作している。大変な面もあるが、やりがいがあるとスタッフは言う。「学校インタビュース」や「スポ☆チャレ」など、岡崎の子供たちが出演する番組も多数ある。「FMおかざき」は、羽根町にあるコミュニティラジオ局。毎日、番組内で岡崎の情報を放送している。特徴としては、地元の人がゲスト出演する機会が多いことである。地域に光を当て、地域づくりという意識をもち、放送だけでなく「教育」「イベント」「防災事業」など、様々な事業にも取り組んでいる。

「東海愛知新聞社」は、岡崎市に本社を置く。前身の「東海新聞」の創刊から六十六年になる、歴史の長い地方紙である。四ページからなる朝刊単体の発行で、身近な出来事を報道する一方、市民の文化や体力向上のため、コンクールやスポーツ大会に協賛することにも力を入れている。

その他、情報機関誌として行政サービスや市内のイベントなどを紹介する「おかざき（市政だより）」、中日新聞の折込みで地元の話題を伝える「岡崎ホームニュース」、歴史や文化、商店や人などの情報を伝えるタウン誌「リバ！」などがある。

これら情報機関は、有益な情報を市民に届け、生活に欠かせないものとなっている。また、市内に住む子供たちにとっても、活躍の成果を披露してくれたり、日頃の取組みを紹介してくれたり

岡崎に密着した様々な情報機関誌



▲ 「リバ！」 磯部ろうそくを取材
昭和55年3月から岡崎のタウン誌として毎月1回発行。人や街と関わり合いながら、地域密着情報を発信し続けている。



▲ 「岡崎ホームニュース」 折り鶴キャンペーンの行事（河合中）を取材
毎月第1～第4土曜日、岡崎市・幸田町にミニコミ誌として発行。小・中学生の活躍を紹介するなど、明るい話題を提供している。



▲ 「おかざき」 職場体験(北中)の受け入れ
毎月2回発行、岡崎全世帯に町内会を通して配付。市政全般、催し物、講座、市民へのお知らせなどを紹介している。また、広報課では、ホームページを公開したりフェイスブックやツイッター、メルマガを配信したりしている。

ミクスネットワーク



▲ 現場取材 スタッフは、カメラ片手に市内を駆け回る。撮影するだけでなく、レポーターとして出演することもある。〈わらび狩りの説明を受ける児童（奥殿小）を撮影〉



▲ 番組編集 ログ・テロップ作り、ナレーション、BGMなど編集業務は多岐にわたる。割り当てられた放送時間内にまとめるのが大変である。



▲ 放送 最後に放送マシン室へ。テープを入れて放送時間をセットする。



▲ 放映 「スポ☆チャレ」に出演する陸上部の生徒（竜海中）

FMおかざき



▲ 打ち合わせ 番組のタイムスケジュールに沿って話す内容や順番、流す音楽などを確認する。



▲ 音量調節 生放送中にパーソナリティの音声、CDの音源など流れる音量をこの機械で調節する。



▲ 番組収録 職場体験で生徒（城北中）を収録に参加させることもある。



▲ 生放送中 明るい雰囲気の中にも、生放送の緊張感が漂う。

コミュニティFMとしての様々な活動

「教育」

アナウンサーになりたい人、話すのが苦手な人、自己表現が上手くない人のためにパーソナリティ養成講座を開設するなどしている。

「イベント」

岡崎警察署と協力して、防犯キャンペーンを開催し、市内のショッピングセンターで防犯クイズを行ったり、啓発品を配布したりしている。

「防災事業」

全国瞬時警報システムから送られてくる情報や岡崎市災害対策本部から発信される情報を、防災ラジオを通して発信している。



緊急情報防災ラジオシステム「Knらじ」は、現在、岡崎市内の全小中学校に設置されている。

東海愛知新聞



▲ 保存されている活版 平成4年11月15日まで活版印刷で行っていた。



▲ 紙面作成 現在は、写真配置や文字数を考えながらパソコンで作業している。



▲ 校正 校正作業は、記者全員が行う。



▲ 印刷 夕方には、明日発行の新聞が印刷される。

主催・協賛などの行事

- 【主催】…将棋大会
- 【共催】…囲碁大会
軟式野球大会
- 【後援】…ジュニアアンサンブルなど



▲ 職場体験の受け入れ 市内の生徒（甲山中）を受け入れ、執筆活動の体験をさせることもある。



● 教育最新情報

○岡崎市教育研究論文募集

岡崎市教育研究論文を以下のとおり募集する。

【趣旨】

岡崎市立幼稚園、小中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を広く募り、教職員の研修と資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともにその努力を顕彰する。

【部門】

- ①個人研究の部（第一部門）
- ②共同研究の部（第二部門）

【論文の体裁】

- ①字数 一八二〇〇字以内（図表等資料も本文字数に含）
- ②用紙・様式 A4用紙
- 四〇字×三五行 一三枚以内（余白天地左右一〇ミリ以上）
- 文字は一ニポイント以上
- 余白への資料添付は禁止

【留意事項】

- ・未発表のものであること
- （ただし、継続実践研究は可）
- ・添付資料は、判読しにくいほど縮小しないこと
- ・個人に関する情報を論文中に掲載する場合は、個人が識別されないよう留意すること

【提出期限】

平成二十四年十一月二十七日（火）

応募の詳細については募集要項を参照されたい。

○岡崎市教育委員

平成二十四年十月一日付けで、岡崎市教育委員が次のようになった。なお、教育長には、高橋淳氏が十一月十七日付けで就任する予定である。

- | | |
|----------|-------|
| 委員長 | 畔柳美奈子 |
| 委員長職務代理者 | 土屋 武志 |
| 委員 | 小出 義信 |
| 委員 | 櫻井 敬子 |

● ハートピアだより

岐路を迎える子供たち

「ひまわりタイム」で

支える――

二学期になって、各中学校では三年生の進路選択が、いよいよ現実味を帯びてきました。ハートピアへ通所する中学三年の生徒たちにとっても、この状況は同様です。

ハートピア岡崎においても、二学期より、中三の生徒の心の充実を目的に、彼らが一つの部屋に集まって学習する日を設けました。

中三の学習指導担当者からは、「子供たちが普段より真剣に取り組んでいる」とか、「男女一緒の部屋でやると、ちょっとした緊張感が生まれていい雰囲気である」というような話を聞きました。

また、子供たちからは、「問題の解き方がとてもよく分かった」「先生がいつも隣にいてくれるので、安心して勉強できる」との声を聞くことができました。

この工夫により、学習に際して相互に切磋琢磨する雰囲気生まれ、子供たちが今までの以上に学習に励むことができるようになりました。

明るさと未来への希望を願い「ひまわりタイム」と名付けてスタートしましたが、一人一人が真剣に学習に取り組む姿に、私たちハートピア指導員も充実感を感じています。さらに、「ひまわりタイム」は、下級生へもよい影響を与え始め、三年生がいよいよ自分たちもまとまって頑張ろうという空気が満ちています。



各自の目標に向かって

● 表彰

◆ハナマルキ第45回おかあさんの詩コンクール（全国）準秀作

福岡小四年

伴野瀬里佳

◆第33回愛知県ユニニアオリピック陸上競技大会

男子Aクラス砲丸投げ

優勝 六ツ美中三年 大浦優汰

男子Bクラス砲丸投げ

優勝 矢作中二年 白藤聖陽

女子Aクラス二〇〇M

優勝 矢作北中三年 松本扶弥

※三人は、第43回ジュニアオリピック陸上競技大会（全国大会）に出場

女子Bクラス一〇〇M

優勝 甲山中二年 犬塚彩奈

※矢作北中・松本さんと甲山中・犬塚さんは、愛知県選抜女子四〇〇MRメンバーとして第43回ジュニアオリピック陸上競技大会（全国大会）に出場

男子Cクラス一〇〇MH

優勝 南中一年 丹羽勇人

女子B/Cクラス走高跳び

優勝 城北中二年 浅井さくら



- 男子Cクラス砲丸投げ
二位 竜海中一年 大河原侘旺
- 女子Cクラス一〇〇MH
二位 美川中一年 加藤紗佳子
- 女子Cクラス八〇〇M
二位 常磐中一年 宇野佑紀
- 三位 常磐中一年 半田楓子
- 男子Aクラス走高跳び
三位 六ッ美中三年 加藤亮汰
- 男子Aクラス砲丸投げ
三位 甲山中三年 戸澤廣哉
- 男子ABCクラス棒高跳び
三位 南中三年 細井駿作
- 男子Bクラス一五〇〇M
三位 南中二年 山下和希
- 女子Aクラス二〇〇M
三位 岩津中三年 武山さくら
- ◆フラワーブラボーコンクール
大賞 六ッ美中部小学校
- ◆第二回岡崎市動物愛護ポスターコンクール
市長賞 六ッ美部 佐藤颯哉

第45回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男子	六ッ美北	南	矢作
	女子	六ッ美北	南	南
バスケットボール	男子	北	葵	矢作
	女子	南	六ッ美北	葵
バレーボール	男子	矢作北	矢作	六ッ美
	女子	矢作	南	城
ソフトテニス	男子	矢作北	六ッ美北	美川
	女子	六ッ美北	甲山	竜海
卓球	男子	矢作	額田	矢作
	女子	六ッ美	北	額田
新体操	女子	東海	南	額田

種目	性	優勝	第2位	第3位
剣道	男子	矢作北	額田	甲山
	女子	矢作	矢作北	矢作
ハンドボール	男子	美川	葵	竜南
	女子	美川	六ッ美北	南
軟式野球	男子	竜海	美川	東海
	女子	甲山	竜海	矢作
柔道	男子	北	竜海	矢作
	女子	北	竜南	甲山
サッカー	男子	南	甲山	竜海
	女子	北	竜海	東海
水泳	男子	岩津	矢作	竜海
水泳	女子	岩津	矢作	竜海

(9月8日実施)

個人競技(1位記録のみ)

水泳

種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
50m自由形	関 優介	竜海	28"77	戸村 優希	竜海	30"78
100m自由形	鳥居 司	葵	1'01"69	高橋 舞夏	竜南	1'07"75
200m自由形	菅田 慎悟	矢作北	2'11"21	望月ひかる	岩津	2'21"86
50m平泳ぎ	加藤 昂太	葵	34"11	酒井 瞳	葵	38"60
100m平泳ぎ	久田 義純	北	1'13"12	佐々木梨湖	岩津	*1'19"93
50mバタフライ	河合 諒哉	東海	* 28"74	成田 優	岩津	34"51
100mバタフライ	渡辺 輝	東海	1'04"61	松居 智咲	南	1'11"77
50m背泳ぎ	梶野 文汰	甲山	33"30	宮島 夏希	矢作	* 32"91
100m背泳ぎ	竹内 裕哉	竜海	1'08"39	千明 楓花	城北	1'11"26
200m個人メドレー	中濱 亮太	城北	2'20"72	中川 史子	矢作	3'00"72
400mR	河合・渡辺 末吉・馬詰	東海	4'11"09	野村・佐々木 清水・望月	岩津	4'30"96
400m メドレーR	竹内・奥本 漆山・関	竜海	4'39"72	宮島・西村 築山・鈴木	矢作	5'00"54

*印は大会新記録
タイは大会タイ記録

柔道

男子	氏名	学校	女子	氏名	学校
軽量級	鈴木 海風	矢作北	軽量級	新田 有紗	北
軽中級	川澄 昌寛	竜海	軽中級	林 波香	竜南
中量級	西垣 覚士	矢作	中量級	鈴木 空子	北
重量級	中根 裕司	矢作北			

陸上

*印は大会新記録

性	種目	氏名	学校	記録
男	100m	浪崎 高志	六ッ美北	12"0
	200m	藪押 誠石	矢作北	24"5
	400m	西田 悠人	竜南	54"7
	800m	吉田 拓央	竜南	2'14"0
	1年1500m	長谷部 航	矢作	4'39"8
	3000m	溝口 琉愛	竜海	9'34"4
	110mH	中西 潤	六ッ美北	16"8
	4×100mR	曾我, 浪崎, 牧野, 藤家	六ッ美北	* 47"9 予47"5
	走幅跳	大久保光祐	南	6m03
	走高跳	久保 快斗	矢作	1m65
女	砲丸投	白藤 聖陽	矢作	* 12m12
	棒高跳	井上 啓吾	矢作	2m80
	100m	野中あおい	新香山	13"1
	200m	佐藤 来弥	竜海	28"4
	1年800m	宇野 佑紀	常磐	* 2'24"5
	800m	大原 芽依	矢作	2'22"8
	1500m	迫間 香葉	福岡	4'59"9
	100mH	山本 梨湖	六ッ美	16"7
	4×100mR	中根, 山本, 沖田, 福井	六ッ美北	53"6
	走幅跳	軒村 香穂	竜南	4m93
子	走高跳	浅井さくら	城北	1m50
	砲丸投	手島 萌乃	北	9m77

*女子1年800mの2位 半田楓子さん(常磐中 2'26"3)も新記録

第51回岡崎市小学校陸上競技大会

- 〈総合成績〉 男子 優勝 愛宕小学校 2位 六名小学校 3位 梅園小学校
女子 優勝 六名小学校 2位 大樹寺小学校 3位 井田小学校

種目	男子			女子			種目	男子			女子		
	氏名	学校	記録	氏名	学校	記録		氏名	学校	記録	氏名	学校	記録
100m	澤田 賢人	緑丘	13"3	杉山 雅子	六名	13"9	400mR	草田, 小嶋 志村, 牧野	六ッ美北	56"0	高村, 杉山 山本, 原	六名	57"9
5年100m	細江 竜矢	小豆坂	13"6	三浦萌々子	六ッ美西部	14"7	走幅跳	河合 優作	連尺	4m74	吉田 伊吹	大門	4m10
80mH	藤岡 諒也	常磐	13"0	袴田 有紗	福岡	14"0	走高跳	三浦健太郎	六名	1m35	中村 友香	矢作北	1m38
1000m	佐々木直之	上地	3'01"2	稲葉 朱音	六名	*3'13"8	ソフトボール投げ	稲留 克哉	六ッ美南部	67m70	片岡 僚子	根石	58m01

*は新記録
女子1000m 2位の浦野真由さん(六ッ美西部 3'15"5)も新記録

・カ
ツ
ト
本
宿
小
高
木
理
人

自由遊び (昭和30年)

写真提供：広幡幼稚園

昭和二十二年四月に発足した新学制の下、幼稚園は、初等教育以前の幼児教育を担う機関として、制度上の位置を大きく変化させた。

この写真は、五歳児が、「巨大、動く車」をしながら作ろう」をテーマに「自由遊び」をしている様子である。子供たちは教師の援助を受けながら、互いに協力して活動している。集団生活の中で、幼児が自己を發揮し、教師や他の幼児に認められる体験をすることで、自信をもって行動できるようにするねらいがあった。

現在も、規範意識や抑制力につながる学習の場として、こうした遊びの時間を大切にしている。

フォトヒストリー 岡崎の教育



この本を

- * 未来をつくる教育 ESD 五島 敦子他
持続可能な多文化社会をめざして
明石書店 ￥2,100
 - * 典子50歳 いま、伝えたい 白井のり子
映画「典子は、今」あれから30年
光文社 ￥600
 - * 差別と日本人 野中 広務・辛 淑玉
角川書店 ￥760
 - * 下町ロケット 池井戸 潤
小学館 ￥1,785
 - * 日本の食糧が危ない 中村 靖彦
岩波書店 ￥798
- 今や食料・飼料はもちろん、農業労働力も外国に頼るのが当たり前となっているが、いつまで続けられるのか。政治は選挙を意識したバラマキ政策に終始し、なかなか展望が開けない。マスコミは問題をあおるばかりである。職人がものづくりにこだわるように、農家も自分の経営に誇りをもち、国のため人のために働いていると考えられたら素晴らしい。筆者はこれを理想とする。
- 常磐東小 内田 尚之

岡崎には、地元の活性化を図り、市民の安全や生活を守る情報機関が多数ある。情報の発信者たちは、取材から編集、発信まで少人数で担当する。苦労も多いが、街のため、市民のためという信念をもって取り組んでいる。活躍の場面を取り上げてもらった子供たちには、素敵な思い出となり、今後の励みになるだろう。

「霜月」は陰暦十一月の異称である。単に十一月というよりも、やはり味わ

い深い。黒板の日付に昔の暦が書いてある学級があり、それに倣って自分の教室にも書いてみた。「弥生」「長月」「師走」。季節を感じる事ができる美しい日本の言葉。季節感が薄れてきている今日だからこそ、子供たちに伝えていきたい。

シ オ ス ア

アーチェリー人気徐徐に上昇しているらしい。この夏、日本を大いに沸かせたロンドンオリンピック。そこでの日本選手の活躍が火付け役となったの言うまでもない。同僚も、早速、県営グラウンドの洋弓場に足を向けたそうだ。蟹江選手の手「アーチェリーを普及させたい」という思いは、確実に歩み出している。

寸暇を惜しんで合唱曲を練習した。「コンクール本番までに、百回歌わなくちゃ。」子供たちは必死になって練習に取り組む。本番を迎えるまでに、様々なドラマが繰り広げられる。どれもこれもがクラスを成長させる糧となる。いよいよ文化祭、そしてコンクール本番だ。仲間と共に完成させるのは、まさに、今。